

## 小冊子（講演を文章化したもの）



1997年から2002年にかけて福岡市で開催された教育関係の講演記録です。講演は約3時間ですが、講話の部分を一部文章化しました。

当時の福岡での協力者によって、以前よりテープ起こしの原稿は出来ていましたが、出来るだけ多くの方々に手に取って読んでいただけるようにとの思いから、今回新たに竹下氏により編集し直したものを冊子化しました。（現在編集途中のものも、今後追加していきます）。

子育てを通して得られる智慧により、家庭、学校、職場での様々な人間関係の問題も解決できるようになります。本当の自分は何か、どう生きればよいのかということの参考になると思います。この小冊子をご希望の場合は、ユニティ・デザインまでご連絡ください。有償で頒布しています。詳しくは[アクセスサイト](#)をご覧ください。

また、[アクセスサイト](#)には同じものを掲載しており、無料でダウンロード出来ます。自由に何冊でも印刷して、ぜひお知り合いの方にも差し上げていただければと思います。

【子育て】 子供たちの心を感じられますか(1)～(6): 全6冊

【教育】 思春期の親子関係(1)～(4): 全4冊



### 【著者プロフィール】

竹下雅敏(たけしたまさとし)

1959年神戸市生まれ、広島県在住

子育て、人間関係、宗教学、自然療法など、幅広いテーマの講演活動を行っている。

監修図書「幸せを開く7つの扉」ビジネス社

豊かな心をもった自立した人間を育てるために

アクセスサイト：<http://www.unity-design.jp/jiritsu.html>

印刷・発行：ユニティ・デザイン

お問い合わせ：TEL&FAX 0823-22-8832

### 思春期の親子関係（1）——思春期の入り口——

思春期というのは、子供の性的な能力が非常に拡大する時期です。思春期のことを表面的に話すのであればなんとも話せるのですが、それでは問題の解決には全然たりません。思春期の問題の本質というのは、子供が性的に成熟するということで、性について話をしないと思春期を誘導することはできないというのが僕の考え方です。

性を誘導する、性を導くとはどういうことなのか、というのが今回の講演のテーマです。野草社から出ているルドルフ・フォン・アーバンという方の本「愛のヨガ」第2章に、子供の性的発達という部分があります。これは大変な名著で、私はこの本は非常に奥の深い重要な本だと思っています。何度も繰り返し読んでいます。性についてこれだけ奥深く非常に深いところから語られている本はないので、非常に参考になると思います。

フロイトは「性欲は赤ちゃんのときからある」と言っています。性欲が高まって性ホルモンの分泌が盛んになり、体が劇的に変化する時期が2回あります。1



映像配信している竹下氏の講演テーマは大きく分けて5つあります。 ※一部準備中  
会員登録していただくと、有料コンテンツ(1本1時間ほどの講演が525円)をご覧ください  
ただです。普通にインターネットの操作ができる方であれば、簡単に会員登録と視聴  
ができます。無料コンテンツや試聴映像をお試し下さい。なお、ネットが混み合う夜より  
も朝昼の時間帯の方が快適にご覧いただけるようです。

視聴代金は、1ヶ月分をまとめて、翌月初めに明細をお送りして、郵便振り込み又は代  
引きでお支払い頂いています。詳細は映像配信のページをご覧ください。

### 《テーマ1》 家族の絆 [連続講演]

夫婦関係そして親子関係がしっかりしてい  
て家族の絆が深い家庭は、どんな逆境も必ず  
乗り越えられます。しかし単なる経済的な  
パートナーであるような夫婦だと、夫が職を  
失ってしまうと、家族はばらばらになってし  
まいます。男性が家族より仕事を優先するよ  
うな価値観は、いやがおうでも変えさせられ  
るような世界の状況になっていきます。

正しい優先順位は、第1が夫婦、次が子供、  
そして友人。仕事はずっと下です。

〈家族の絆～親子(1)～より〉

サブテーマ)

親子(親子関係)、夫婦(夫婦関係)

### 《テーマ2》 宗教学講座

この講座では宗教を科学的な視点から精密  
に霊的な科学として捉え直します。そうする  
ことで、あらゆる宗教のある意味での一致点  
と相違点が明確になってくると考えています。

仏教、キリスト教、神哲学、ヒンドゥー教  
の哲学、サーンキヤ・ヨーガなど、それぞれ  
の世界観がどう違うのか、言葉を正確に定義  
して、同じものは同じと捕まえて、宗教の全  
体を理解することを目標としています。

〈初級コース第1回より〉

サブテーマ)

初級コース(中級上級コースは順次開講予定)

番外編:ダ・ヴィンチ・コードの真相

### 《テーマ3》 チャクラと波動

人間の身体には重層的に高次の身体が  
あり、その神経中枢がチャクラと呼ばれ  
ています。チャクラの活動は、その方の  
意識と密接に関係しており、いわゆる「波  
動(意識の高さの尺度)」を計るセンサー  
としての機能もあるそうです。

インドに伝わるガヤトリー・マントラ  
は、ガヤトリー女神を讃え智慧を授かる  
ことをお願いするマントラです。このマ  
ントラを使った除霊と浄化の祈りなど、  
心身の浄化と波動を高めるための様々な  
方法を竹下氏が解説します。

### 《テーマ4》 東洋医学講座(雑談集)

この講座は、中国医学、インドのアー  
ユルヴェーダ、アロマセラピー、ホメオ  
パシーなど、代替医療を統合する医療理  
論を学ぶ講座です。テキストとDVDで  
販売してきましたが、受講生の方に講座  
の中の雑談が好評で、4期行われた講義  
のうち教材にしていない映像から雑談部  
分を再編集して公開します。

### 《テーマ5》 ホツマの神々

日本神道に伝わるホツマの神々について、  
最近起こった事をお伝えします。

当に一人前の人間だ、ということ周りの人が認めてあげればいいのです。そう  
したら、そこを速やかに通り抜けていきます。ところが、親は言うことをきかせ  
るのが親の力量だと思っっているようで、その時期の子供の行動を生意気だと思っ  
てしまいます。まだ中学生の分際で、という感覚でとってしまおう。そして、「子  
供のくせに」とか「おまえはまだ中学生なんだから」とか言う。これほど子供の  
独立を阻害することはありません。これは禁句です。親や教師が言葉でこれを言  
うと、子供からの信頼を失い、相手にされなくなります。子供が自分を認めても  
らいたいという時期なんだから、それを素直に親や教師が認めてあげる、一人前  
の人間として扱う。そうすると子供はすっと成長し、自立していくわけです。非  
常に簡単だと思えます。

思春期以前の子供は、叱りつけたり怒鳴りつけたりしたら、それなりに言うこ  
とをきいてきたわけです。ところが思春期になるとそういうのではきいてくれま  
せん。体格が大きくなって力量もパワーもだんだん親に近づいてきます。そう  
なると、言葉の暴力や殴ることで躰げようとしても、言うことをきいてくれなくな  
るわけです。これは子供に対する、思春期ということに対する理解が非常に不足



供のあるがママを受け入れてください」と言ってきました。「お父さんはおまえにこうなってもらいたい。こうなったら愛してやる。」という条件付きの愛情のかけ方をしないということ。そうではなくて、「おまえがどんなふうでもいいんだよ。いてくれるだけでいいんだよ。」という感覚です。自分の子供が誘拐されたら、そんな気持ちになるでしょう。命さえあつたらいい。もう勉強のことなんて言うまいぞ、って気持ちになるでしょう。その感覚です。「生きていてくれたらいいんだ。お父さんはおまえがいてくれたら十分なんだ。」そういう愛情のかけ方です。そういうふうには子供に接すると、子供は愛情要求が満たされることになるのです。そして、「自分は本当に、お父さんとお母さんに大切にされている。」と思つて育ちます。

ところが、この愛情要求を満たされるか満たされないかが、生後の一年ぐらいで決まってしまうのです。これは本当に恐いことです。それで僕は胎児の頃から生後1年までの子育てとこのを重視して、そこに膨大な時間をかけて話してきました。

アーバン博士の本「愛のヨガ」の中にも、こう書いてあります。『たいていの



の中に組み込まなければいけません。

思春期は、性の意識が強く目覚める時期です。言葉をかえて言えば、独立要求を強く主張する時期と言えます。この時にもっとも大切なことは、何度も言うように、子供に対して、ひとりの独立した人格としての敬意を払って接する、という、このことにつきまします。このように独立要求をしっかり満たして、性を罪悪視させないように正しく導き、例えば今回紹介した、アーバン博士の「愛のヨガ」の内容を正しく子供に伝えることなどの、将来子供が夫婦となって幸せな家庭を築けるような土台となるしっかりとした基礎を与える時期なのです。ですからこのことは思春期に限ったことではないのですが、特にこの時期に、学校では知識や学力や体力に偏って子供を指導している風潮があるようですが、そうではなく、しっかりと将来の幸福な夫婦関係、親子関係、そして人間関係の基礎としての性を導くという視点から、もう一度思春期の子供たちへの接し方を見直さないといけないと思います。

(講演) 2000年12月17日 福岡市)

|||この小冊子の内容は、転載、引用自由です。|||

これは現代の大人のほとんどに当てはまります。自分の夫のことを考えてみて下さい。どうですか？自分に対して本当に愛情深い言葉をかけてくれますか？ 違うでしょう。

これは、なぜかというと、今の大人が愛情要求が満たされていないからなのです。子供の頃にスキンシップが足りないのです。本当に子供を大切に育てて、スキンシップを十分に与えた子供というのは、全く動物や生き物に対して残虐な行動をとりません。ものすごく大切にします。ところが、アリを見たら踏みつぶす、カエルを見たら踏みつぶす、そして投げつけるということを子供はよくやります。そういう子供はスキンシップが足りないのです。子供のころに十分抱いて育てていない。

看護婦さんや保母さんがよく親に言うのですが、「そんなに抱いたら抱き癖がついちゃうよ。」と。これは大人の論理です。大人はそういう風に言ったほうが楽ですから。そうやって子供の性的な欲求をおさえてしまいます。子供が、抱っこされたい、というのは性欲なのです。その性欲をちゃんと満たしてやる。だいそれたことじゃないんだから、ちゃんと満たしてやる。そうすると愛情要求が満



だから男女間もうまくいくんです。

ところが子供を育てる大人のなかで、他人を尊重できる人というのは非常に少ないように思います。例えば、今の男性のうちどれくらいが妻を尊重しているかと考えると、とても少ないことが分かります。ほとんどの男性は、女性のことを馬鹿だと思っているようです。論理的思考力がなくて、おしゃべり好きで、つまらないことを井戸端会議やっている。ところが女性から見ると、夫は思いやりがなくて、自分のことを分かってくれなくて仕事ばかりやっていると思っています。そして、女性は10年か20年くらいすると、愛想をつかしてしまいます。初めは男が女を馬鹿にしている。そのうち女が男を馬鹿にするようになる。そして夫婦の間が冷え切ってしまう。これはどっちが悪いかというと、多分、男性の方だと思います。先に馬鹿にしまっているから。

なぜ、このようなことが起こるかというと、私は教育が悪いからだと思っています。今の教育は、知的な能力を重視しすぎるんです。速やかに正確に物事が処理できる能力。問題の本質を見つけ出してそれをいかにして解決していくかの能力。これは男性の能力です。学校の先生が、頭がいいとか、いい大学に入れるだ

まった、という報告がある。親に面倒を見てもらえない人間の子供にも同じことが言える。生後10週から6ヶ月の赤ん坊を対象にした興味深い研究がある。母親にしょっちゅう触れられていた子は、そうでない子供よりも風邪をひく率が圧倒的に低い。』(50ページ)

ちゃんとスキンシップをされて育てられたら病気が少ないということ。親があまり子供を抱っこしてないと、子供はしょっちゅう病気をします。例えば1ヶ月に何回も病院に行かないといけなくなります。ところが、本当に大切に十分に抱いて育てたら全然病気をしない。ですから、子供がよく病気をする、風邪をひく、おねしょをする、夜泣きをする、というのは全部、愛情の不足、愛情要求が満たされないということなのです。

次にも面白いことが書いてあります。

『神経症、鬱病の女性患者 (これは大人のことでしょうけど)。神経症、鬱病の女性患者は誰かに抱きしめてもらう回数が多くて、また、その時間が長い人ほど回復が早かった。』(50ページ)

鬱病患者、思春期の引きこもり、あるいは登校拒否。本当は恋人でもいて、そ



ているといえる方は少ないのではないのでしょうか。例えば、NHKの「未来への教室」という番組では、世界のトップで活躍している指揮者とか、画家だとか先生になっっています。そういう人の授業は受けてみたいと思いませんか？そして敬意を払って聴くでしょう。どんなことを言っているのかなとしっかりと耳を傾けるでしょう。子供に対しても同じように敬意をもって聴いて下さい。そういう態度で子供に接したら、子供は自分が大人として扱われているということを自覚して、独立要求を満たしていきます。

けれどもそのようにできる大人は少ないように思います。子供が何か言っても「んやわう」「だめでしょ」「いけません」と否定することばかり言います。そうすると子供は自分の力を奪われる。その子供は奪われた力を他人から奪おうとする。そしていじめが起こる。いじめの本当の根源は家庭にあります。それを教室で解決するのは不可能です。どんなに子供に「仲良くしなさい」「けんかしたらいけません」と道徳律を先生が教えても、いじめは絶対になくなりません。もしその教室からいじめをなくそうと本気で思ったら、先生が一人一人の子供に対して敬意をもって接することです。ところがほとんどの先生は子供を見下していま

んじゃないの。」「とか、「それ、子供っぽいんじゃないの。」「とか絶対に言わない。ただ聞いてあげる。そうすると、「この人は僕の言っていることを受け取ってくれる、分かってくれる」と思って、悩み事を本当に話し始めます。そうすると次第次第に治っていきます。これが一番簡単で、絶対的効果の治療方法です。実はこれは、その本に書いている『抱きしめてもらうその時間が長い』ということを、精神的にやっているのです。僕は、プラトンはこのことをプラトニッククラブって言ったと思っています。そういう能力を身につけている人が心理療法士になれる人です。

思春期で引きこもったり登校拒否になったりとか、いろんな悩みを心でかかえて家庭の中でトラブルを起こしている人は、ほとんどの人が愛情に飢えている人です。それは、小さい頃にもらえなかった愛情を、なんとかそのときに取り戻そうとしているのです。親がそのメッセージに気づいて、そのケアをしてあげたら、その子供はそこを取り戻すことができます。そして、愛情の要求を獲得してその時期を通過し、独立の要求の時期、思春期へ進んでいきます。

子供の時に愛情の要求を満たしてあげないで育ててしまったかもしれない。失敗したかもしれない。そして未成熟のまま成長してしまい、思春期で引きこもつ



た方がいいです。本当は、家庭の中が平和でストレスがたまらない家庭だと、3才や5才では覚えられないものです。社会でのストレスが少なくて、家庭でもストレスがなければ、マスターベーションは全然覚えないうまま、結婚してしまうと思います。でも、現代の社会は非常にストレス度の高い社会なので、どうしてもどちらかの反抗期の時に覚えるのが普通です。これは問題でも性的倒錯でもなく、成長していくために必然的な行動です。

実は、フロイトが言っているのですが、子供のうちは性欲は肛門にあります。それをマスターベーションをしたりすることで性器の方に移っていくているのです。性器の方に性欲が移っていかなければ、思春期になって生殖行動がとれませんが、その方が非常にまずいわけです。マスターベーションを覚えた子供に罪悪感をもたせるようなことをしてしまうと、意識が肛門のレベルに留まってしまい、例えば、大人になっても肛門に対して愛着をもった変態になってしまいます。本当に男性も女性も、性が成熟するためにマスターベーションを罪悪視しないことが大切です。

うちの子の場合、最初の思春期ではストレスがなかったせいかマスターベーションは、子供に愛情のこもった接触がなされない社会（現代社会のことですね）、愛情のこもった接触がなされない社会ほど成人の暴力発生率が高いということを発見した。愛情豊かに育てられる子供の方が、健康で幸福な大人になることが多い。性犯罪、児童へのいたずらに走る男は、子供の頃から人から拒絶されたり暴力を振るわれてばかりで、抱きしめられた経験が少なかった傾向がある。』（ページ）

このように、研究結果がはっきりとでてくるわけです。

今、少年犯罪が多発しています。その原因について、躰がなっていないからだとか、我慢することを教えていないからだとかいう人がいます。しかし全然違うんです。愛情要求が満たされていないというのが解答です。具体的に言えば、子



をメスの方に、人間だったらお嫁さんの方に渡すと、精子と卵子がくっついて、そして増殖して、子宮の中で生まれる。それは知ってるよね。」と言ったら、子供は「知ってる」という。凶鑑とかを見ているので、精子と卵子が結合して増殖して大きくなっていく絵は見ているわけです。だからあと問題なのは、どうやって精子を受け渡すかという核心の一点になる。そこで僕は説明しました。「女の人には、赤ちゃんが産まれるところがあるんだ。知ってる？それはおしっこが出る所じゃなくて、それとは別の赤ちゃんが通り抜けてくる穴があるんだ。」「赤ちゃんが出てくるところだよね」「そうそう。お母さんになる人のそこに、お父さんになる人が自分の生殖器（子供にはチンポって言いましたけど）を入れて、睾丸のところにある精子を送り込むと子供が出来るんだ。」「子供に、ともくんね。触ったりするとチンポが固くなるだろう。」「うん。なる。」「なんでチンポが固くなるか知ってるか？」「分からない。」「実は、ふにゃふにゃのチンポだったら女の人の穴の中に入れられないだろう。」「あーッ。そうか。」「だから固くなるんだよ。固くなって、そして入れて、精子が睾丸から出ていって、子宮の中を通過して、結合して、赤ちゃんができるんだ。」「……。あーっ。わかったあ。」という感じで、

今、性非行が問題になっています。これについて、少しお話ししましょう。ほとんどの男性は、結婚した後は妻を性欲を満たす対象にしまって、ただそれが満たせればいいんだとなくなってしまいます。ところが女性は違います。女性は、男性に抱きしめてもらいたいという気持ちが大きいんです。

これも研究報告があるのですが、娼婦の人になぜ娼婦をしているかというアンケートをとったそうです。その理由として数字的にすごい比率であったのが、セックス自体は実際には男性に抱きしめてもらうための代償であり、我慢すればいいんだと、ほとんどの娼婦の人が思っているとのことでした。これは、いかに愛情要求が満たされていないかということだと思います。そういう人がそういう世界に入ってしまうのは、肌の触れ合いが足りないからということなんです。

愛情要求が満たされている人は自分がすごく大切な存在だということを知っています。なぜかって、大切にされてきたから。だから自分を大切にします。それで性非行になんて絶対走りません。なぜかということ、性非行って自分を軽んじる行為でしょう。自分を大切にしない行為でしょう。だからそういうことを絶対にしません。ところが愛情要求が満たされていなくてすごく軽んじられて育った子



とを問題にしないで、すぐく自然なことだよって過ぎておけば、問題にはなりません。でも、特にお母さんが「いけません」「いやらしい」「この子は変態じゃないかなろうか」と言って接すると、子供からパワーを奪ってしまいます。独立要求をちょっとずつ、ちょっとずつ、根こそぎに絶やしてしまいます。子供が性というものはいやらしいものだ、何かいけないものだって思ってしまう。子供は時々どうやって子供が生まれるのかについて聞いてきます。そのときにどうすればいいかについてお話ししましょう。アーバン博士が「絶対」ウノトリの話をするな。」と言っていますが、本当にこれはいけません。子供が聞いてきたところまでは、誠実に答えて下さい。

2ヶ月ぐらい前のことですが、子供とお風呂に入っているとき、子供がうちのペットのサクラって名の雑種の犬のことを聞いてきました。犬は妊娠する時期が年2回くらいあります。サクラはメスの犬ですからお尻から血を流している。その時期になると妊娠する可能性があるので、家では可愛そうですけど檻の中に閉じこめています。子供はそれを不思議に思っ「どうしてサクラは閉じこめられたの？」と聞くわけです。そのとき、ちゃんと話します。「ああいう風になると、

性が未成熟なんです。大人になっていない。このことは、私はものすごくゆゆしき問題だと思っています。

ようするに、男性も女性も未成熟なわけで、そういう人が子供を育てるんだから、子供が成熟するはずがない。成熟した人間を育てるには、抱いてスキンシップを十分に与えて育てるしかない。では、どうすればいいかというと、夫婦間でスキンシップの時間をたくさんもつ必要があるんです。アーバン博士はいいことを言っています。『ダブルベッドにしないで。必ず夫婦で手を握り合って体をくっつけて寝なさい。』これは、本当にそうだと思います。仲のいい夫婦ってというのは必ず手を握り合って寝たりとか、スキンシップが非常に多いです。十分、夫婦のコミュニケーション、対話がとれています。だから男の人が女の人を軽く抱いたりとか、抱きしめてじーっと女の人を感じるということをよくやっています。恋人のときにしていたように、夫婦になってもそうやってるんです。男性が手を握って、妻の手を感じてあげるといふことをやっています。肩を抱いて、腰に手をまわして、その妻を感じてあげる。いつもそうやってると、「私は愛されている」と思うから、性的な部分でも非常にうまく反応してくれて、夫婦は円満に



まだ思春期が来ていないので独立要求という段階にはなっていないのですが。独立要求とは結局、性の要求です。そこを満たしてやらないといけません。

ご存じだと思いますが、サルにはマウンティングという行動があります。地位の高いオスが地位の低いオスの上に乗って交尾のような格好をすることです。人間も同じことをするんです。母親の上を覆いかぶさったりとかして、母親に対してマウンティング、自分の地位と力を確認する行動をとります。男の子がお父さんをまたいで上から見下ろしているといったこともマウンティング行動です。それから、お父さんに何かじゃれあっているように見えて肩にのしかかってくるような行動もです。親は甘えているなって思うのですが、実は違っていてマウンティング行動です。俺の方が上位だぞ、ということを示しているのです。

また、うちの子供の場合ですが、妻と一緒に風呂に入りますね。子供の髪を洗ってあげるわけですよ。ちょうど抱っこして髪の毛を洗ってあげるときに、自分の生殖器や睾丸を妻のお腹にくっつけて揺するんです。これはマーキングという臭い付け行動です。お母さんは僕のもんだよって、唾をつける行動です。動物は肛門のところに臭いを出す臭腺があるでしょう。子供も同じです。そこをこす

です。成長して思春期になると、子別れの義をします。親が子供をテリトリーから追い出します。そして子供は放浪します。それから性が発達して大人になってくると、自分のテリトリーを作るための闘いが始まります。思春期というのはそういう時期なんです。性が爆発的に出て、男女の性差がはっきりときます。そして、メスを獲得するために自分のテリトリーを確立して、自分を知らしめる行動をし始める時期なのです。

これは別の言い方をすると、親が子離れしないとイケない時期です。人間の思春期は12才から18才ですが、野生の動物ならもっと前に、人間の年齢でいうと小学校の4、5、6年生の時期にもう追い出しています。家から出て行けど。人間はそういうことをしないので、一緒に暮らしていて、思春期を向かえるわけです。思春期の時期は、あらゆる動物がテリトリーを獲得するため、メスを獲得するために闘争をやっている時期です。それが人間の子供の場合は、スポーツだとか勉強だとかいろんなことで自分の能力を人に見せようとしています。子供の発達としては当たり前のことで、自立して大人になろうとしているわけです。だからこの時期の子供は、何かで人よりも抜きん出て、自分がこんなことができるってことを



大切に尊重されて育った人は人を尊重できるから、そういう差別心を持たない。これがいかに大事なことかお分かりいただけると思います。

教育現場では、差別をなくそうとか言って同和教育をしています。しかし、そう言っている親とか教師が子供を尊重していません。まだ子供なんだからと見下しています。何か賤げないといけない家畜のように見ているようです。そうやって育てておいて、一方で差別をなくそうって言っている。これは絶対に出来ないことをしているわけです。私は、学歴に対する差別、身分に対する差別、お金持ちかどうか、そういうものに対する差別が一切無い、成熟した人間を育てたいんです。そして差別のない社会になって欲しい。そうするためには、子供の独立要求っていうものをきちんと満たしてやることだと私は考えています。

独立要求と愛情要求という、人間の要求に二つの方向がある。これはすべての人間が基本的に満たさなければいけない非常に大切な要求であるということをお話しました。本当に親が子供の二つの要求をきちんと満たして育ててあげると子供は本当にいい子に、素晴らしい人間に育ちます。愛情要求をたっぷり与えて育てた子供というのは、ものすごく優しい子になります。人に本当に愛情を振りまけ

よ。あなたにいてもらえると嬉しいんだ。」そういうふうの評価してもらいたいわけです。だから子供の存在自体を評価してあげることが大切なわけです。

子供は独立して大人になりました。だから子供に対してどういうふうに接したらいいかというと、あなたは本当にもう一人前の立派な大人なんだ、そういう接し方をします。「まだ子供なんだから」とか、「経験が足りないんだから」とか絶対に言うてはいけません。あなたはもう十分に私と同じ人格をもった大人なんだ、そういう接し方をして、子供をちゃんと一人前の人間として認めてあげる。そうして、今までは権威としての親の役割だったのが、友人とかアドバイザーとしての役割に変わっていきます。そうやって接していくと、子供は自分の独立要求が満たされていき、自分は本当にお父さんお母さんに認められていると感ぜられます。そういう子供はちゃんと自立して大人になることができます。大人扱いされているから。大人扱いされているから大人になる。非常に単純です。

ところが今のほとんどの家庭ではすごく子供扱いをします。「お前はまだ子供なんだ」とよく言いますが、それは子供扱いしているということなんです。子供扱いをして育てたらどうなるかというと、その子は自立できなくて子供のままになり

